

作成日：2018年10月

更新日：2021年9月

災害マニュアル

災害とは

- 自然現象や人為的原因で被害が生じること。
尚且つ、その被害が人間に影響を与えるものに限ります。
(例：誰も済んでいない地域で土砂崩れが発生しても損害を受ける人がいないため)

災害の種類

- 自然災害（気象災害）
 - 雨 → 河川の氾濫・土砂災害 など
 - 風 → 竜巻・高潮 など
 - 雪 → 雪崩 など
 - 雷 → 落雷
 - その他 → 干ばつ・寒波 など長期間にわたるもの
- 自然災害（地震）
 - 液状化・がけ崩れ・津波 など
- 自然災害（噴火）
 - 噴石・火砕流 など
- 人的災害
 - 事故（列車・航空・海難・交通など）

災害の防止と対応

- 災害を未然に防止する対応には2種類あります。
被害が生じないようにする「被害抑止」被害が生じてもそれを少なくする「被害軽減」
これらを一般的に「防災」と呼びます。

各拠点における危険性を把握しよう

新興グループの営業所は様々な地域にあり、それぞれ違う条件下にあります。
まずは、自分の営業所に及ぶ危険を把握しましょう。

	雨	風	雪	雷	地震	噴火	
本社			▲		液状化・津波		海拔5m未満
鹿児島 R C			▲	落雷	液状化・津波		海拔5m未満
谷山			▲	落雷	がけ崩れ		近くに山
知覧			▲	落雷		▲	
指宿			▲	落雷		▲	
川内	土砂災害			落雷	がけ崩れ	▲	裏手が山・原発
佐賀				落雷		▲	

★ 川内営業所 裏山に隣接しているため、大雨・地震の際は特に注意が必要。

※ハザードマップ上で「土砂災害警戒区域」に指定

本社 海拔 5 m 未満、かつ埋立地のため、地震発生時には注意。

鹿児島 R C 海拔 5 m 未満、かつ埋立地のため、地震発生時には注意。

谷山 近くに山があり、麓に駐車している車両は注意。

各営業所 計量器への落雷に注意。

また、強風時のプレス倒壊に注意。

回収業務中における危険性

	雨	風	雪	雷	地震	噴火
回収員	河川の氾濫		▲		津波・地割れ	

自分の回収ルート上にある「洪水・浸水区域」「土砂災害警戒区域」を添付の
ハザードマップで確認しましょう。

河川の周辺、海沿い、山の斜面が近いところは注意が必要です。

また、地震においては場所を選ばず危険な状態となります。

通勤中における危険性

自宅と出勤先の間にも危険区域があります。

「通勤方法」に合わせて「危険区域」を把握しておきましょう。

**自分の周囲にある危険性を確認したら
対処方法を考えましょう**

災害にそなえる

■ ハザードマップを確認する

- 自治体が公開している「ハザードマップ（被害予測地図）」で「浸水」や「土砂災害」の危険性が高い地域を把握しておき、安全な場所を確認しておく。

■ 気象警報・注意報を確認する

- 気象庁や自治体の発令を見逃さないようにする。
- スマートフォンのアプリなどで情報を仕入れる。

■ 非常時に持ち出すものを用意しておく

- 短時間で避難するために、あらかじめ準備しておく。
- 定期的に中身をチェックし「電池切れ」「賞味期限切れ」が近いものは交換しておく。特に飲料水と食料品は注意して管理する。

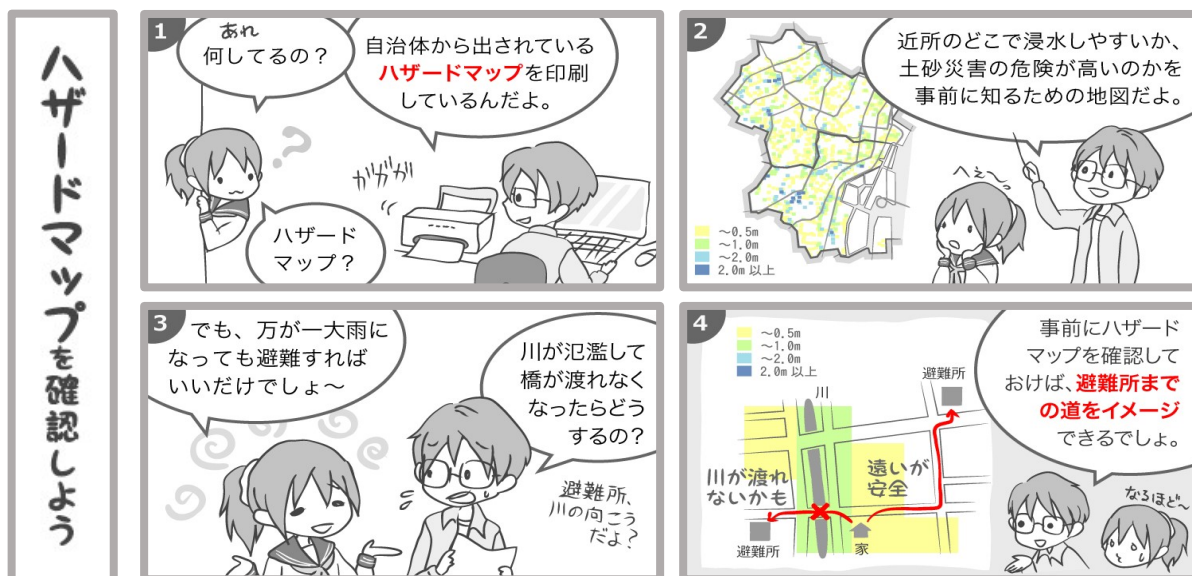
■ 台風時の対策

- 屋根や家の周囲に飛ばされるものが無いように片付ける
- 屋上やベランダの排水溝を掃除する（屋根裏への浸水を予防）

■ 土砂災害の予兆を知る

- 崖にひび割れができる。
- 崖から水が湧き出る。
- 水が濁る
- 樹木が傾き始める。

※特に川内営業所は、予兆を見逃さないように気を付ける



<<Yahoo防災コラムより>>

災害ごとの対応

■ 大雨による洪水や浸水が発生しました

- 河川や用水路の周辺に近づかない
- 掘り下げ式の地下道には近づかない
- 地下施設から地上へ避難する
- 山などの急な斜面には近づかない

【大雨による洪水】

- 天気急変に注意しましょう。（暗い雲は要注意）
- 河川付近にいた場合は、素早く離れましょう。

その場では晴れていても上流での大雨により急に増水することがあります。

■ 竜巻が発生しました

- 時速70～80kmで移動してくるので素早く避難
- 飛来物に気を付ける
- 樹木や電柱は倒壊する場合があるので近づかない
- プレハブは吹き飛ばす可能性があるため近づかない

【屋内】 建物の1階・窓の無い部屋に移動する。

窓がある場合は雨戸、またはカーテンを閉める。

【屋外】 飛散物から身を守るため、物陰に隠れる。

■ 台風が発生しました（大雨と強風）

- 外へ出ない
- エレベーターは極力使わない
- 河川や用水路の周辺に近づかない ※大雨と同じ
- 掘り下げ式の地下道には近づかない ※大雨と同じ
- 地下施設から地上へ避難する ※大雨と同じ
- 山などの急な斜面には近づかない ※大雨と同じ
- 飛来物に気を付ける ※竜巻と同じ

外に出ちゃダメ!!



<<Yahoo防災コラムより>>

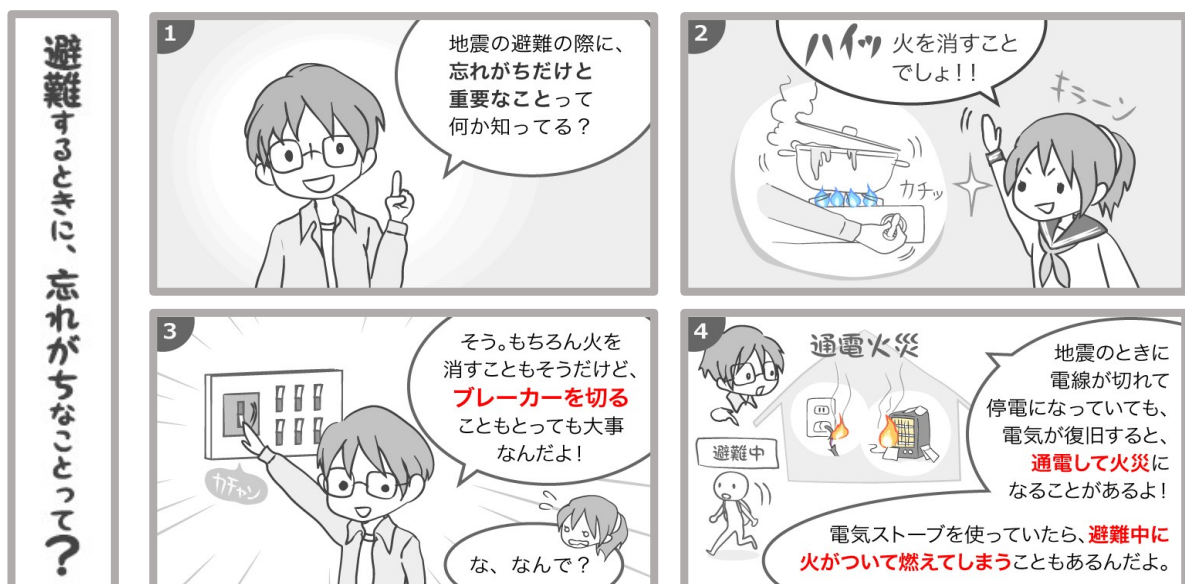
■ 地震が発生しました

① 地震発生時

- 【自宅】 ・地震の揺れに備え「頭を守る」「大きな家具から離れる」「机の下に隠れる」
- 【屋外】 ・ブロック塀や自動販売機、看板などの落下する危険性があるものから離れる。
 - ・頭を守るためにカバンなどを頭上に置く。
- 【駅・施設】 ・スタッフの案内に従って行動する。
 - ・頭を守るためにカバンなどを頭上に置く。
- 【運転中】 ・ハザードランプを点滅させ、周囲の車両に注意しながら速度を落とす。
 - ・慌てずに速度を落とし、道路の左側に寄せて停車する。
 - ・避難する際は貴重品を持ち、車のキーは残したままにする。
- 【エレベーター】 ・各階のボタンを押して、すぐに降りる。

② 揺れが収まった際の行動

- 【自宅】 ・火を消す。合わせてガスの元栓も締める。
 - ・足元に注意して移動する。ガラス片や蛍光灯を踏まないようにする。
 - ・室内であってもヘルメットや靴を着用して行動する。
 - ・暖房器具（火気）を消しておく。
 - ・ブレーカーを切る。
 - ・ドアを開ける（歪みで開かなくなるため）
- 【その他】 ・家具などの下敷きになって動けない場合は大声で助けを求める。
 - 逆に、下敷きになっている人を見かけたら人数を集めて救助する。
 - ・火災が発生していたら消火器で初期消火を行う。



■ 大規模な噴火が発生しました

- 頑丈な建物の中に素早く避難する。
- 噴石や火山灰が体内に入らないようゴーグルやマスク、またはタオルなどで目や口を覆う。コンタクトレンズを着用している人は外す。
- 見通しが悪くなるため運転は控えるか注意する。
- 気象庁や自治体の情報に注意する。
- 火山周辺にいる場合は早急に避難する。

■ 津波が発生しました

- 渋滞に巻き込まれるため避難は「徒歩」です。
- 川沿いから離れる。津波は河川を逆流します。
- 木造の建物には逃げない。2 mの津波で倒壊する場合があります。鉄筋コンクリートの高い階まで逃げる。

① 津波の性質

津波には勢いがあるため30cm(膝より下)の津波でも人は流されます。
また、川の流れとは違い「がれき類」が混ざっているため怪我をします。
海沿いで流された場合、引き並みの際に沖合まで流されます。
「波」と「津波」は違うことを知っておきましょう。

② 注意報の違い

津波注意報 ・ 1 m未満の津波	→海にいる人は海岸から離れましょう
危険) 津波警報 ・ 1 m以上 3 m未満の津波	→沿岸部にいる人は高い場所へ避難
危険) 大津波警報 ・ 3 m以上の津波	→ただちに高い場所やビルに避難



避難方法

■ 状況に応じて「避難」か「待機」か判断する

- 周囲の状況を確認してから避難
- 避難に適した服装を着用
 - ・ 頭を保護するヘルメット等を着用する。
 - ・ 長靴ではなく履きなれた靴で、底が厚めのものを履く。
 - ・ 動きやすい長ズボン・長袖と軍手を着用する。
 - ・ 両手が使えるリュックを使うようにする。
- 避難する際の注意
 - ・ できるだけ複数で避難する。
 - ・ 浸水して足元が見えない場合は、傘や棒などで探りながら進む。
マンホールや側溝に落ちる危険や、突起物を踏む可能性があります。
 - ・ 夜中は危険なため、明るいうちに避難する。
 - ・ 台風の際は車両で移動する。
 - ・ 地震の際は徒歩で移動する。

国土交通省ハザードマップポータルサイト

災害が発生してから調べるのではなく、今のうちに知っておくほうがいざという時に落ち着いて行動ができます。

国土交通省の提供するハザードマップを確認しましょう。

(国土交通省のサイトから、各市町村のサイトに移動します)

■ <https://disaportal.gsi.go.jp>



防災対策で被害を減らす

■ 本社事務所の危険

【地震】	・窓ガラス等の破損と落下	防災グッズで対応
	・液状化現象による建物の傾斜	避難時のヘルメットを準備する
【津波】	・海拔5m以下による浸水	土嚢を準備しておく

■ 福岡支店の危険

【地震】	・エレベーターの故障	閉じ込められた時を想定した避難訓練をする
	・窓ガラス等の破損と落下	防災グッズで対応
【津波】	・浸水時の危険区域	非常時の食料を確保しておく

■ 営業所（工場）共通の危険

【落雷】	・計量器への落雷	アース工事にて対処
		事務所内のコンセントに雷サージ付きを使用
【地震】	・プレス品の倒壊	積み上げる高さを決める
		工場の壁や機械設備との距離をとる
	・書棚等の倒壊	防災グッズで対応

■ 鹿児島リサイクルセンターの危険

【津波】	・海拔5m以下による浸水	土嚢を準備しておく
	・液状化現象による建物の傾斜	

■ 谷山営業所の危険

【大雨・地震】	・自動車学校側の駐車場で土砂崩れ	駐車場所を再検討する
---------	------------------	------------

■ 知覧営業所の危険

・特になし	回収ルート of 安全確認
-------	---------------

■ 指宿営業所の危険

・特になし	回収ルート of 安全確認
-------	---------------

■ 川内営業所の危険

【大雨・地震】	・「土砂災害警戒区域」に指定	事務所裏の土砂崩れに注意して、避難経路をシミュレーションしておく
【地震】	・原子力発電所のメルトダウン	

■ 佐賀営業所の危険

・特になし	回収ルート of 安全確認（海拔の低いエリア）
-------	-------------------------